



北海道新英研 会報142号 (2021.12.14発行)

編集担当：倉 照彦 (くら てるひこ)

〒098-6341 宗谷郡猿払村知来別 1081 猿払村立知来別小学校

Tel : (01635)3-4030 E-mail : terutomokei1123@yahoo.co.jp



1. 巻頭言 北海道新英研 共同代表 倉 照彦

北海道新英研夏季研究会はオンラインで行いました。その到達点について、会報第141号の北海道新英研顧問小山内先生の総括を引用して、現状を振り返り、北海道新英研の方向性を考えたいと思います。

「英語教育の現状をどう感じているか」を全会員にアンケートで問う試みが行われました。「英語教育を全体として困難にしていると感じるものは何か」と、「何が自分の教育活動を困難にしているのか」という2つの角度できている点がユニークです。“自己の外側にある客観的な状況に対する見方”と、“自己の内面で感じている主観的な意識”の両面で質問しています。

当然そこにはズレが生じます。そのズレが研究・討議の重要なテーマにつながるのではないのでしょうか。たとえば「小学校との接続・連携」という設問で、客観的な状況としては“それは問題である”と感じつつ、本音では“あまり考えたくない(考える余裕がない)”と受け止めが分裂する可能性があります。

アンケートはそのズレを見るように設問が工夫されています。逆にいえば、回答にそのようなズレがない問題ほど、研究・討議によって解明すべき深刻かつ重要な要素を含んでいるともいえます。

アンケートの結果から、そのような問題としてはっきり浮かび上がったのは、以下の3つでした。

- 「小学校英語教育に対する世論の過度の期待」(小学校)
- 「All English での指導の要請(義務化)」(中学校)
- 「大学受験改革(共通テストのあり方、民間試験の導入の動き)」(高校)

これらの問題について、マクロな視点(状況分析)とミクロな視点(教育実践)の両面で究明していく必要がある、と私は感じました。

私はいま、北海道新英研が緊急に取り組まなければならない課題が2つあると強く感じました。1つは、小学校英語の実践をいろいろな角度から交流し、全道の小学校の先生方が参考にできる授業方法を明らかにすることです。(途中略)いま一つは、中学校入門期の英語がピンチにさらされている実態があります。それを広く客観的につかみ、先生方の苦労を共有して、打開策を練ることを急いでやる必要がある、さもないと中学英語は崩壊するということです。

(途中略) 私はある教科書の1年生Lesson1を、旧版(平成27年版)と改訂版(令和3年版)で読み比べてみました。旧版のLesson1は、I am～、You are～(Are you～?)を使った会話文の提示と文型練習が中心です。それに対して新版のLesson1は、「日本語と英語の語順」「英語の文の代表的な2つの型」「さまざまな疑問文」「お願いする文」等々を、一気に扱っています。小学校英語を引き継いだという前提に立った編集です。

いま危惧されるのは、「学校の授業で教える英語」の根幹が揺らいでいることではないでしょうか。どんな英語学力をどう培うのか、何をどうわかりやすく教えるのか、どのようにして生徒のやる気を引き出し勉強が楽しいという感覚に導くのか、自らの勉強を振り返りながら、更なる向上につながるような評価システムをどう創るか、等々の基本的な命題を見失わないようにしたいものです。(以上)

会報142号 コンテンツ

- 1. 巻頭言P.1
- 2. 第55回外教研お知らせ
..... P. 2
- 3. 会員から
連絡と書評..... P.3
- 4. お知らせ・クラの蔵出し... P. 4

今、小学校外国語指導に関わる課題、中学校の入門期、2・3年の指導の困難さが全国的な問題となっています。その中で、私たち英語教員も、日々の多忙の中で思考が停止してしまう状況にあります。そうならないためにも、夏季研アンケートで小山内先生が示した“客観的な状況に対する見方と、感じている主観的な意識”のズレが少ない課題(前ページの枠参照)に対して、マクロな視点(状況分析)とミクロな視点(教育実践)の両面での究明が、私たちの活動に求められています。

「私たちは何のために、英語を教えているのか？」新英語研究会に携わった先輩達は、その答えを追い求め、「外国語教育の4目的」として、3度にわたって改訂してきました。

【外国語教育の四目的】(第3次:2001年2月改訂)

1. 外国語の学習を通して、世界平和、民族共生、民族主義、人権擁護、環境保護のために、世界の人々との理解、交流、連帯を進める。
2. 労働と生活を基礎として、外国語の学習で養うことが出来る思考や感性を育てる。
3. 外国語と日本語とを比較して、日本語への認識を深める。
4. 以上を踏まえながら、外国語を使う能力の基礎を養う。

今の外国語・英語指導に関わる問題を、4目的に照らし合わせて考えてみてはいかがでしょうか。

2. 第55回北海道外国語教育研究集会のお知らせ

今回は、「①小学校・中学校における外国語・英語指導に関わるアンケート分析、②中学校新教科書で導入された指導実践」の報告を通して、参加者みなさんで交流します。今回も Zoom での開催となりますが、全道全国から参加をお待ちしております。詳しくは、外教研チラシをご覧ください。

第55回北海道外国語教育研究集会

<日 時> 2022年1月8日(土) 13:30~16:00

<開催方法> オンライン開催(Zoom)

<テーマ> 「小学校外国語と中学校英語の接続を考える」

<内 容>

1. 開会あいさつ・趣旨説明(10分)

2. 実践報告(20分×2)

- ① 中学校の報告(大口雅也)「仮題~中学校新教科書~初導入の仮定法, どう指導する?」
- ② 小学校の報告(倉 照彦)「~小学校外国語と中学校英語, 接続についての一考察」

3. 参加者交流 「小学校外国語・中学校英語の悩み・不安を交流しよう」

- ① 実践報告の感想交流・発表(ブレイクアウトルーム:40分, 途中休憩あり)
- ② 学校別お悩み相談コーナー(ブレイクアウトルーム:35分)

4. 参加者感想 会のまとめ(5分)

5. 閉会あいさつ 連絡事項

- 参加料 無料
- 参加方法 お名前・所属(学校名・元○○教員・○○大学生等)・メールアドレス・話し合いたい話題(任意)をご記入の上, 下記までメールで申し込みください。
- 申込先 terutomokei1123@yahoo.co.jp
- 申込締切 令和3年12月28日(火)
- ID/パスワード 申込みが確認されましたら, メールで Zoom の ID・パスワード, 実践報告の資料を, 令和4年1月6日(木)頃までに送信します。

3. 会員から

北海道新英研の大先輩お二人から連絡をいただきました。ご紹介します。

土門 玲子さん

この度、長らく住まわれた登別を離れ、娘さんのおられる千葉県に転居されるということでお手紙をいただきました。土門さんは北海道を「自己表現」実践の地、と全国の新英研から評されるようになるきっかけを作った『小石の歴史』の実践家です。初任校の宗谷管内小石中学校(当時)で、炭鉱閉鎖後に寂れゆく町で、それでもたくましく生きる中学生たちに、町の歴史を掘り起こし未来を語る自己表現活動をされました。

私自身が教師になりたての頃、山梨での全国大会に、顧問の小山内洸先生をはじめ多くの会員の方々とフェリーに乗って参加したのですが、そのときにご一緒した思い出深い記憶を、頂いた手紙にも書いてくださっており、懐かしく読ませていただきました。千葉でもどうぞお元気で、私たちをお見守りください。

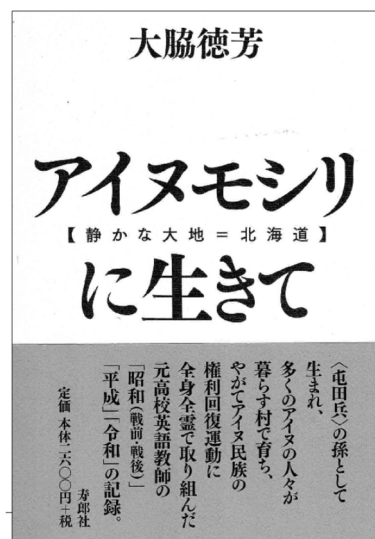
※図は北海道新英研編『北海道における『自己表現』実践 22 年間の軌跡と展望』(1990) p.106



大脇 徳芳さん

この度、自叙伝『アイヌモシリ【静かな大地＝北海道】に生きて～昭和十年、日高地方に生まれたある高校英語教師の自叙伝』を刊行されました。大脇さんは現役を退いてから20数年ですが、現役時代からの変わらぬバイタリティでご自身とその家族の歴史、教育活動の実践、定年後のピースボートの旅の記録、そして生涯をかけてのテーマであるアイヌ民族問題への取り組みなど 500 ページに及ぶ大部に編み上げられました。萱野茂氏の絵本、『アイヌ ネノアン アイヌ』などを英語に翻訳し世界に発信した「プロジェクト・ウエペケレ」のこと、北海道新英研が総力を上げて教材化した川村カ子ト氏の伝記『原野に挑むアイヌ魂～Kaneto, A Man of Burning Spirit』のことを書かれた項などは、少し関わった者としては大変興味深く、懐かしく読ませていただいています。

※本書を購入されたい方は杉山までご一報ください。



共同代表 杉山讓司 jojisugiyama@gmail.com

4. お知らせ

(1) 会費納入、忘れていませんか？

オンラインで顔を合わすことが少なくなったためか、今年度の会費が未納の方が多数おられます。1月総会で会計決算を行うため、未納の方は納入をお願いします。詳しくは別紙をご覧ください。「納入したか分からない」という方は、北海道新英研 LINEWORKS や共同代表までご連絡ください。

(2) 中学校例会に参加しませんか

共同代表(大口)よりメール案内していますので、気軽にご参加ください。

北海道新英研 中学校グループ例会

毎月1度(第二土曜日), 20時より Zoom で集まって語り合っています。

内容は、近況報告から、学習レポート、趣味の話など。ゆる～くやっています。

次回は、2月12日(土)に実施予定です。

共同代表(大口)よりメール案内していますので、気軽にご参加ください。



クラの蔵出し(久しぶりにやることになりました。嵯峨さんのような“癒やし”は届けられませんががんばります。)

ひよんなことから、2週間自宅で過ごすことになりました。(おかげで健康になりました)

「今まで当たり前に出ていたことができなくなる」、月並みな表現となりましたが、家でも元気に過ごせる方法を、試行錯誤してやってみました。みなさんはどんな方法をお持ちですか？

【家にも元気でいれる方法】

- (1) 情報・人のつながり ~ 学校に来るメールを転送してもらいました。また、学校のオンライン授業を Google classroom というアプリに上げてくれました。授業動画を見て、子どもや他の先生の様子に励まされました。唯一残念なのが、地域版の新聞が読めないこと。道新はネットで読めても、管内新聞は読めず。ちょっとさみしかったです。
- (2) 元気にしてくれる環境~出来ないことを考えると不安になるので、気晴らしをしました。土日にやっている男料理、購入して読んでない本・雑誌を読み始めました。テレビも不安になるようならば、YouTube で BGM を。「元気・勇気が出る番組・ドラマ」を流すと、仕事がかどりました。(私の場合:東京 MER, チコちゃんに叱られる, ケンミン SHOW, 車番組など)
- (3) 体を鍛える習慣~やる気スイッチや幸福感の増幅に関係する快樂物質「ドーパミン」は、ビールの麦芽やホップに含まれる他、スポーツをする際にも分泌されるそう。なので、アルコールに頼るだけでなく、簡単なスポーツもいいそうです。それ以来、家でストレッチやラジオ体操、家でサウナっぽく入浴を楽しんでいます。
- (4) 自分が必要とされること~人それぞれです。家でモノづくり, 趣味, 読書, 家事。オンラインで人と会う, その日考えたことをメモる。

思いつくだけ書いてみましたが、もう2~3週間で今年も終わりですね。会報をご覧になっている皆さん、今年もお世話になりました。どうぞお元気に、よい年をお迎えください。

都合がよければ、外教研にもぜひ参加してくださいね。(倉)

